

## 第27回刈谷市障害者自立支援協議会議事録

日 時 平成28年10月18日（火）午後3時30分～午後5時

場 所 刈谷市役所 7階 大会議室B、C

委 員（敬称略）

### <出席者>

医療法人成精会	垣田 泰宏
社会福祉法人ひかりの家	大南 友幸
特定非営利活動法人パンドラの会	岡部 扶美子
特定非営利活動法人くるくる	中井 啓介
刈谷市身体障害者福祉協会	平野 健司
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	藤井 孝
刈谷手をつなぐ育成会	篠原 真由美
刈谷地区心身障害児者を守る会	鈴木 小枝
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川 宏
刈谷市障害者支援センター	増子 恵子
刈谷市社会福祉協議会	加藤 桂生
刈谷公共職業安定所	岡田 将男
衣浦東部保健所	佐野 隆司（代理）
愛知県立安城特別支援学校	都築 正徳
愛知県立ひいらぎ特別支援学校	森 勝弘（代理）
刈谷市教育委員会	土井 淳（代理）

### <欠席者>

愛知教育大学	都築 繁幸
社会福祉法人観寿々会	堤 勝彦
刈谷商工会議所	河内 利夫
刈谷児童相談センター	武田 靖志

### （事務局）

福祉健康部 部長	鈴木 裕
福祉総務課 課長	近藤 敦人
〃 課長補佐	山岡 達也
〃 障害企画係長	酒井 武士
〃 主任主査	森 洋喜
〃 主事	森下 果歩
〃 主事	鈴木 玲奈

開会

資料の確認

- ・ 次第
- ・ 刈谷市障害者自立支援協議会委員名簿
- ・ 資料1 刈谷市障害者自立支援競技会 各部会スケジュール
- ・ 資料1-① 「地域生活部会」中間報告について
- ・ 資料1-② 「就労支援部会」中間報告について
- ・ 資料1-③ 「相談支援部会」中間報告について
- ・ 資料1-④ 「子ども部会」中間報告について
- ・ 資料1-⑤ 「事例検討研修会」中間報告について
- ・ 神奈川県障害者自立支援協議会からのメッセージ

1 会長代理あいさつ

2 議題

(1) 各部会の中間報告について

事務局 資料1により、各部会の開催状況と今後の予定について説明

ア 地域生活部会

事務局 資料1-①により「地域生活部会」中間報告について説明

会長代理 各種団体や地域生活部会からも出席されるとのことであるが、セミナーの会場はどこか。

事務局 刈谷市産業振興センターを予定している。

会長代理 人数制限は設けないとのことであるが、自由参加ということか。

事務局 申込みを事前に行っている。当日でも申込みをいただければ参加は可能である。

会長代理 何人くらいの参加者数となりそうか。

事務局 現時点で50人から60人程度の申込みが来ている。

会長代理 それだけの参加があるということは、注目度が高いということだろう。また、具体的にディスカッションできるのはよいことだ。障害者差別解消法の周知の第一歩となる。

委員 地域移行支援事業で初の支給決定とのことであるが、進捗状況はどうか。

事務局 月2回の面談を行っており、地域移行の話を進めている。しかし、長期入院している方を対象とした事業であるため、まだ退院には至っていない。

委員 事例を大切にしていきたい。

委員 地域移行はずっと課題となっていて、ようやく取り組みが始まった状態である。先ほど紹介があった通り現在進行中で、今は退院後の住居を探っている段階である。やはり住居が一番大きな課題となっており、グループホームや施設等、色々な選択肢の中、まずはグループホームから探っていきたいと考えているところである。

会長代理 本人の意欲はどうか。精神障害者の方は不安が強くて先に進めないケースが多い。

委員 基本的には退院したいという意向がある。それに応えていきたいが、まだうまくいっていない。

会長代理 期間の延長はできるか。

委員 手続きは色々あるが、半年は可能である。

会長代理 是非最初の一例なので成功に結び付けていただきたい。本人の中で退院

の意思があるのが大事なポイントだ。課題は色々あるが、やはり住居が大事であり、場合によっては、あと半年くらい延長ができることが確認できた。

委員代理 制度自体が愛知県内でも中々利用が進んでいない。一件行うことでいい部分が見えてくると思う。課題も明確化してくる。そういった部分を部会の中で話し合っていきたい。

委員 地域移行は初の決定で大変関心がある。昨年に長期入院している17歳の方で、退院を模索したケースがあったが、地域移行支援事業は18歳以上でないと対象にならないという縛りがあり、同事業で対応できなかった。こういうケースに活用され広がっていくことを期待している。発達障害の子でなかなか地域に移行できない方に活用できるとよい。

会長代理 確かに発達障害、統合失調など10代前半で発症するケースもあり、中には長期入院になってしまう方がいる。よくテーマとして挙がる児と者の狭間のことだ。地域移行でも同じ問題があるということ把握することができた。まずは大府病院のケースがうまく運び、次回の協議会で良い報告が聞けることを期待している。ただしこれはスタートであり、退院後の半年、2年、3年先まで定着するまでには色々な支援が必要である。

#### イ 就労支援部会

部会長 資料1-②により「就労支援部会」中間報告について説明

委員 雇用セミナーを行って、その後はどのような形で企業支援を行っているか伺いたい。

部会長 10月12日にセミナーの振り返りを行った。これから求人を出そうという会社には、その分野を得意とするハローワークやナカポツがアプローチを行い、具体的にこういう人が欲しいというケースについては、移行支援の方で対応するといった担当分けまで行った。次回の部会では、その進捗状況の報告がある段階である。

委員 障害者を受け入れた後の会社へのその後のフォローという話は理解できたが、当事者のフォローについてはどうか。

部会長 障害者の就職者数の半数は精神障害者である。しかし、推定ではあるが離職率はかなり高く4割を超えと言われており、知的、身体の3倍から4倍は高い。働く力、意欲はあるが、それを続けていくときのフォローは少ない。自分としても課題であると認識している。制度としても3年以上支援を行うと加算がつくなどあるが、事業所により運用が異なる。障害者の方は仕事をすると孤立してしまうことが多いので、障害者の集まりなどに通い、仲間と悩みを共有しながら仕事を継続している方もいる。就職率とともに定着率についても大切であると思っている。

会長代理 就労支援と相談支援の連携体制については、本人のフォローという点でも有益なことである。就職先の獲得と本人のフォローを如何に充実させていくかという2点について、相談支援と就労支援でタッグを組んで支援を進めていくということか。

部会長 現状について互いに話し合いながら進めていけたらよいという思いでいる。

委員 定着支援について、今年ナカポツの評価委員になっているが、1職員あたりの相談件数が2千件を越えていると聞いた。6市をナカポツの職員3人で対応しており体が追いついていないと感じている。豊田市ではナカポツと同じ場所に市の組織があり、ナカポツと似たようなことをしている。名古屋市にはナカポツ以外に名古屋市単独のナカポツが3つあり、定着支援を図っている。くるくるの仕事は大変評価できるが、忙しすぎる。人口が多い市はナカポツとは別の組織があってもよいのではないかと。刈谷には会社が多い。移行支援事業がその役割、卒業生のフォローを担っている。安城市の就労に係る部会で面白い事例がある。全ての事業所に参加を呼びかけ、市の方向性を考えることと、勉強会を行っている。最初は支援計画の書き方から始め、今では経営論など高度な内容を取り扱い、底上げを図っている。

会長代理 まさにこれからの課題として部会の中で検討して欲しい。安城市の事例

もあるが、豊田、名古屋それぞれやり方があり、刈谷市のあるべき連携体制を検討して欲しい。

委員 どんなどころがセミナーに来たか教えて欲しい。

部会長 学校法人もあるし、刈谷の製造系の大手、知的障害者を多く雇用して社員食堂をやっているところや社会福祉法人などがある。

委員 ナカポツは支援する人が3人で相談件数が2千件ではどうしても長時間労働となってしまう。刈谷市ではこの問題に対して方策はあるか。

事務局 既にやっている事業として、就労移行後支援事業があり、就労してから1年の間、本人のフォローをする事業を独自でやっている。

委員 それがどれだけ使われてきたか。使い勝手が悪いということは改善していく必要がある。各自事業所は自分のところから就職した人を定着させるのがやっとなのである。それ以外の人全てが全てナカポツに行けばフォローしきれない。

会長代理 刈谷市としての取り組みについて部会でも活発に議論をして頂きたいと思う。

#### ウ 相談支援部会

部会長 資料1-③により「相談支援部会」中間報告について説明

委員 移動支援を具体的に取り扱ってもらえてありがたいと思っている。ただし、強度行動障害については、受け入れられる事業所が少なくなっている。男性職員も不足している。ガイドラインを整理する中で、強度行動障害についても対応できるようにして欲しい。

事務局 基幹相談支援センターが出来て半年が経過した。3人で運用しているが、まだまだ市の助けが必要な状態である。相談者は、とりあえず基幹に来てくれるが、想定よりも児や発達障害の相談が多い。基幹が入ることで複数

の事業所間の調整をしていくという立場でいきたい。部会の課題については、今年度は市から提示されているが、来年度は自立支援協議会等の意見を踏まえ、地域課題として挙げていきたい。

#### エ 子ども部会

委員 資料1-④により「子ども部会」中間報告について説明

委員 重度障害者はたらい回しになっている印象がある。刈谷市にはもっと先進的な町になってほしい。

委員 支援をする機関や学校は、親から見たら大切な子なのだという気持ちを持って関わって欲しい。

委員代理 放課後等デイサービスの利用として、預けるということでサービスを利用するが、社会との繋がりを持つという意味でサービスを利用するという考え方もある。保護者と連携してサービス利用の目的をはっきりしたい。本校は重度が増え、中には医療ケアや訪問教育が必要な生徒もいる。

委員代理 保護者、支援機関の連携をやっていかなければいけないと感じた。

会長代理 大変な課題であると思うが、大事なことなので今後も検討を継続して欲しい。

#### オ 事例検討研修会

事務局 資料1-⑤により「事例検討研修会」中間報告について説明

委員 学校が関わるのであれば呼んでいただければ参加したい。

会長代理 事例検討研修会の参加メンバーは固定されているのか。

事務局 市内の4つの事業所により役割等を持ち回りで開催しているが、メンバーを固定している訳ではないため、内容によっては入れてもよい。

会長代理 第9回の事例は学校と相談支援事業所との早期の連携が必要であるという事例だと思うのでまた関わって頂ければと思う。

委員 民生委員の方が関わり良い動きをしたことがある。地域の民生委員を活用することが必要かと思う。小さい時から民生委員が親切に関わり、繋げることができた事例がある。自分達のような専門的な人間だけではなく、地域で支えることも大事だ。

会長代理 精神障害の場合でも、民生委員がうまく関わってくると助かることが多い。

委員 地域包括支援センターと連携して民生委員の障害者部会に参加したことがあり、その際に民生委員も制度のことは知らないが興味はあるという意見を聞いた。高齢者よりは数が少ないが地域に気になる障害者がいた場合、民生委員もどうしてよいか分からないとの意見があった。

委員 私たちが最初に民生委員と繋げないといけない。民生委員はそのような気持ちがあるから民生委員になっている面もあり、勉強会もやっていただくと思う。

委員 皆様が事例を通じて障害児に向き合ってくれることは本当にありがたい。育成会でも勉強会の出席率はとても高い。年に4回開催しており、会員の意識も高い。

会長代理 励ましのメッセージありがとうございます。事例検討研修会も第10回まで来たが、事例を積み重ねてスキルアップを図ることができるので、引き続きお願いしたい。

### 3 その他

事務局 神奈川県障害者自立支援協議会からのやまゆり園に係るメッセージを紹介



委 員 障害者支援に対する職員向けの研修会はやっているか。

事 務 局 障害者差別解消法に関する職員向けの研修を昨年度に行っている。今年度はまだ行っていないが、今後、職員研修をやっていくことを考えている。

委 員 障害者に直接関係の無い窓口においても障害者に適切な案内がなされるようにして頂きたい。